

# 特有の症状を診察する女性ヘルスケア 精神や身体、多面的サポート

九州大病院別府病院の医師が各診療分野について、病気の症状や治療・研究、日常生活の注意点などを紹介する。  
(18回続き)

九州大病院別府病院の診療・研究

## からだを読み解く

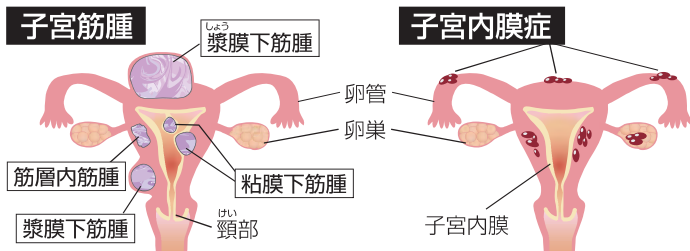
▶ 1 ◀



婦人科准教授 園田 顕三

女性の社会進出に伴い、人に優しい多くのアイデアが実現してきました。柔軟な発想や周囲との関係を重視しながら行動力を発揮するなど、さまざまな領域で活躍されています。このような社会的背景もあり、女性特有の症状を診察する女性ヘルスケアは、日本を含む全ての国で欠かせないものとなっています。健康的に社会活動を行えるよう、質の高い医療支援が必要です。

女性は、生まれてから思春期、社会生活を送りながら出産・育児に従事する時期、更年期、老年期と複数の時期を過します。人生におけるこのような時期をライフステージと呼ぶことがあります。それぞれのライフステージでは、精神的



にも身体的にも、ダイナミックな変化を経験することになります。また、出産を介して新しい生命の誕生に関わるライフサイクルにも携わることがあります。産婦人科は、多面的に女性

## 適切な情報、治療提供重要

性の人生活をサポートする診療科です。思春期に生理(月経)が始まることから、生理のトラブルに対応します。具体的なものとしては▽無月経(月経が来ない)▽希発月経(月経の頻度が少ない)▽頻発月経(月経の頻度が多い)▽不正出血(病的な出血)▽月経困難症(痛みがひどい)ーなどがあります。婦人科診療に際しては、身体状況を評価し、日常生活での環境や精神的ストレスも考慮する必要があります。また、炎症や良性腫瘍(子宮筋腫や子宮内膜症、ポリープなど)、がん、妊娠中出血などを見分けることも必要です。

ここで、子宮筋腫と子宮内膜症について、簡単に解説します(図)。子宮筋腫

は30歳以上の女性の20〜30%に認められ、発生した部位・個数・大きさなどによって症状が異なります。無症状のものもありますが、過多月経(月経時の出血が多い)、下腹部不快感、頻尿、便秘、不妊などの原因となることがあります。子宮内膜症は月経困難症などの痛みを起します。子宮筋腫と子宮内膜症は共に、薬物療法や手術療法が行われています。

女性ヘルスケアとしては、AYA世代と言われる15〜39歳の若年世代の婦人科がん治療も重要です。この時期は、親からの自立や、生活の中心が家庭や学校から社会での活動に移行する時期です。この時期にがんと診断されると、心身にさまざまな影響を受け、強い不安を抱くことも少なくありません。AYA世代はがん全体の5%程度を占め、罹患率は15歳未満の8倍、40歳以上の20分の1と報告されています。適切な情報と治療の提供、および生殖機能温存の支援が重要な課題となっています。

AYA世代も10代、20代、30代と年代によって罹患するがんが異なりますが、希少がんが多いのが特徴です(表Ⅱ国立がん研究センターがん情報サービスより)。

AYA世代(15〜39歳)の罹患率が高いがんの種類	
15〜19歳	① 白血病(24%) ② 胚細胞腫瘍・性腺腫瘍(17%) ③ リンパ腫(13%) ④ 脳腫瘍(10%) ⑤ 骨腫瘍(9%)
20〜29歳	① 胚細胞腫瘍・性腺腫瘍(16%) ② 甲状腺がん(12%) ③ 白血病(11%) ④ リンパ腫(10%) ⑤ 子宮頸がん(9%)
30〜39歳	① 女性乳がん(22%) ② 子宮頸がん(13%) ③ 胚細胞腫瘍・性腺腫瘍(8%) ④ 甲状腺がん(8%) ⑤ 大腸がん(8%)

当院では、2024(令和6)年4月から18年ぶりに婦人科診療が再開となりました。「女性に優しい病院」をモットーに、女性ヘルスケアと婦人科がん治療を中心とした診療を行っています。皆さまに安心して治療を受けていただくように努力しますので、今後ともよろしくお願いたします。